

平成 22 年度
横浜市福祉特別乗車券（福祉パス）利用者アンケート

集計結果

横浜市健康福祉局障害福祉課

1 アンケート調査実施概要

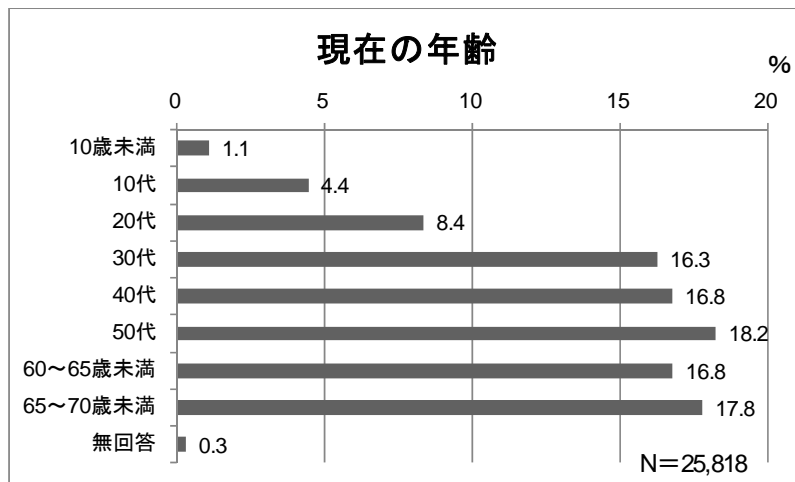
- 調査目的：横浜市では、障害者プラン（第2期）に基づき、現在、「将来にわたるあんしん施策」を進めているところであり、その中で、福祉パスや福祉タクシー利用券など、現行の様々な移動支援施策をより使いやすく、必要な人に必要な支援が適切に行われるよう、再構築するための検討を行っている。
その検討の参考として、福祉パス利用者がどのような利用をしているかなど、福祉パスの現状について把握することを目的とする。
- 調査対象：福祉特別乗車券交付者のうち障害者手帳要件による交付者全員（平成22年2月末時点）
47,582人
（内訳）
身体障害者：23,360
知的障害者：8,387
精神障害者：15,835
- 調査方法：郵送による発送（福祉パス発行時に同梱、郵送による回収）
- 調査時期：平成22年3月23日～5月10日
- 回収数：25,818人（回収率：54.3%）

2 アンケート調査結果

1) 回答者の属性

(1) 年齢

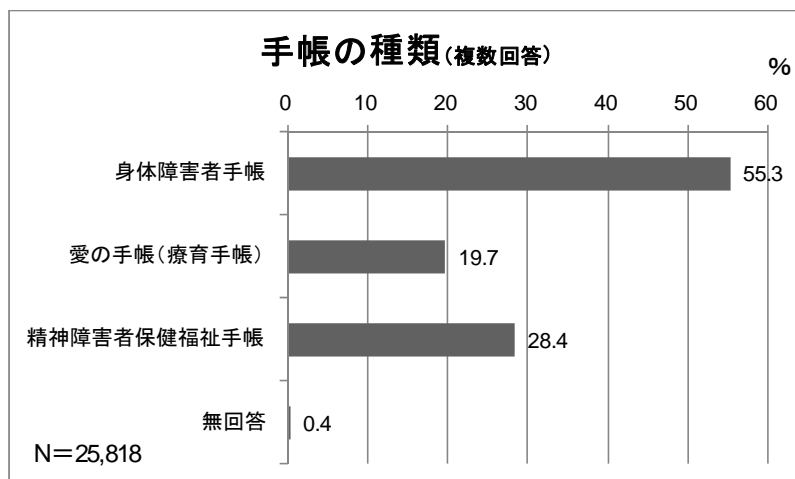
60～65歳未満と65～70歳未満を合わせた60代が34.6%と最も多く、全体の1/3を占めている。次いで、50代18.2%、40代16.8%、30代16.3%であり、20代以下は13.9%であった。

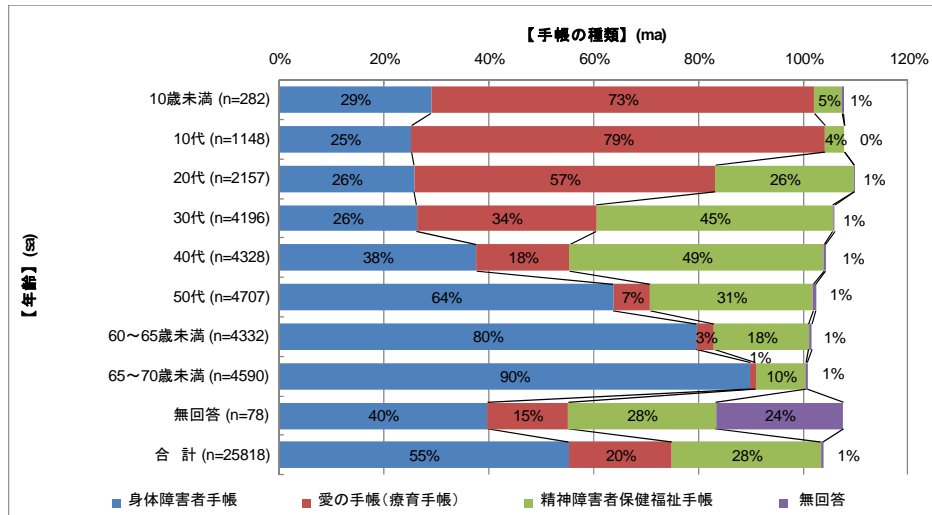


(2) 手帳の種類(複数回答)

身体障害者手帳を持つ人が55.3%と全体の半数以上を占める。精神障害者手帳を持つ人は28.4%、愛の手帳(療育手帳)を持つ人は19.7%であった。

年齢別に手帳の種類をみると、10歳未満、10代、20代では愛の手帳(療育手帳)が最も多く、30代、40代では精神障害者手帳が最も多い。50代以降では身体障害者手帳が最も多く、とくに60歳以降では8割以上が身体障害者手帳となっている。

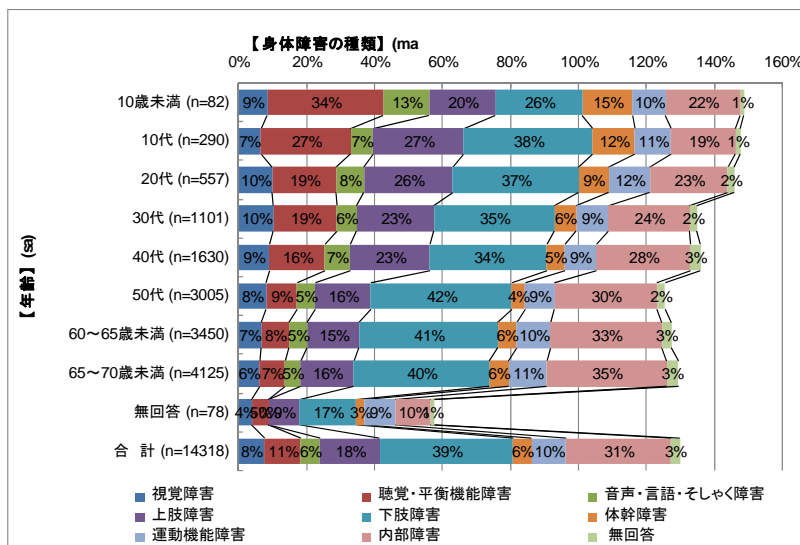
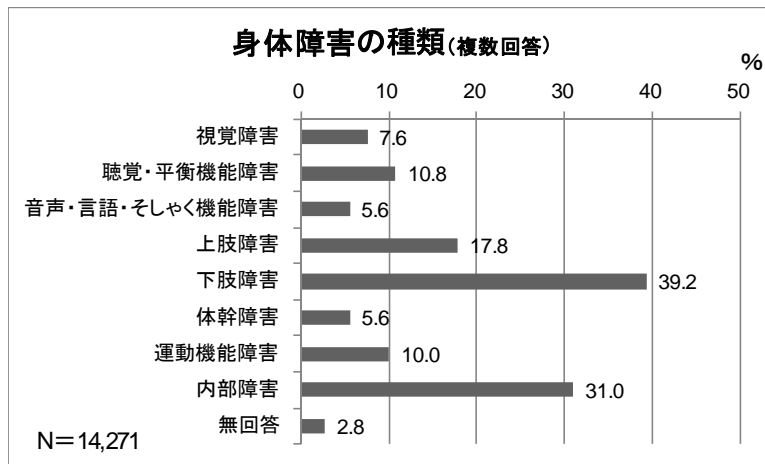




(3) 身体障害者の障害の種類 (複数回答)

下肢障害が 39.2%と最も多く、次いで内部障害が 31.0%と多い。

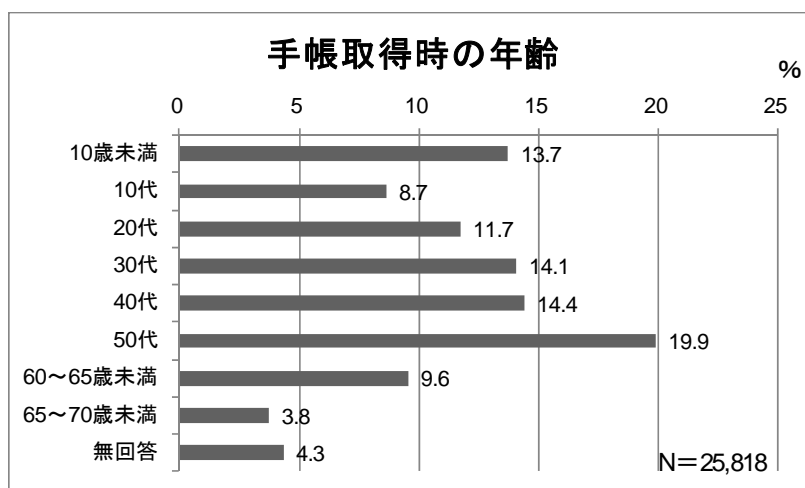
年齢別に身体障害の種類をみると、聴覚・平衡機能障害や上肢障害は年齢が高くなるほど割合が減少しているのに対して、下肢障害、内部障害は年齢が高くなるほど割合が高くなっている。



(4) 手帳取得時の年齢（複数回答）

50代が19.9%と最も多く、次いで40代14.4%、30代14.1%、10歳未満13.7%、60代13.4%と続いている。30代以降に手帳を取得した人が概ね6割となっている。

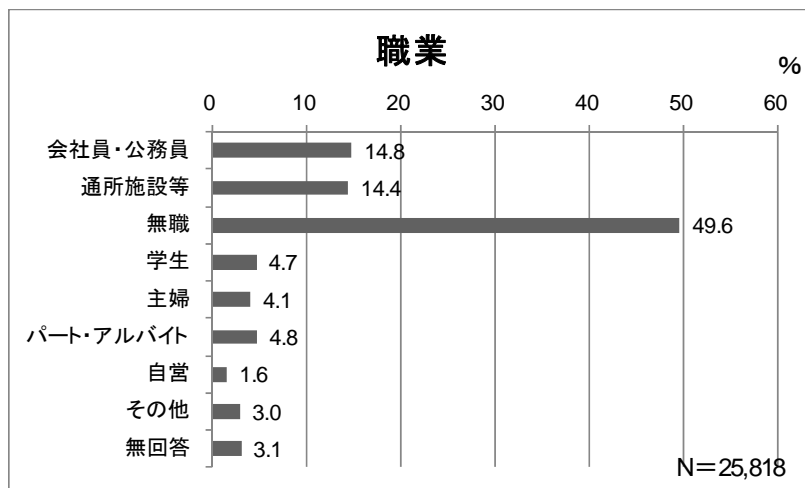
障害の種類別に手帳の取得年齢をみると、身体障害者は50代が28.0%と最も多く、50代以降で全体の約半数を占めている。愛の手帳（療育手帳）では、10歳未満が42.5%、10代が25.9%と多く、10代までに約7割が取得している。精神障害者では20代21.0%、30代29.4%、40代20.8%に多く、20代から40代までで約7割が取得している。



手帳取得年齢	10歳未満	10代	20代	30代	40代	50代	60~65歳未満	65~70歳未満	無回答
身体障害者手帳 (n=14271)	11.9%	6.0%	7.7%	9.5%	14.9%	28.0%	14.8%	6.3%	1.0%
愛の手帳(療育手帳) (n=5098)	42.5%	25.9%	10.6%	4.2%	2.6%	1.1%	0.2%	0.0%	13.1%
精神障害者保健福祉手帳 (n=7332)	0.6%	3.4%	21.0%	29.4%	20.8%	15.3%	4.9%	0.9%	4.1%
無回答 (n=111)	0.0%	3.6%	8.1%	9.0%	7.2%	19.8%	6.3%	4.5%	41.4%
合計 (n=26812)	14.6%	9.0%	11.9%	13.9%	14.2%	19.4%	9.3%	3.6%	4.3%

(5) 職業

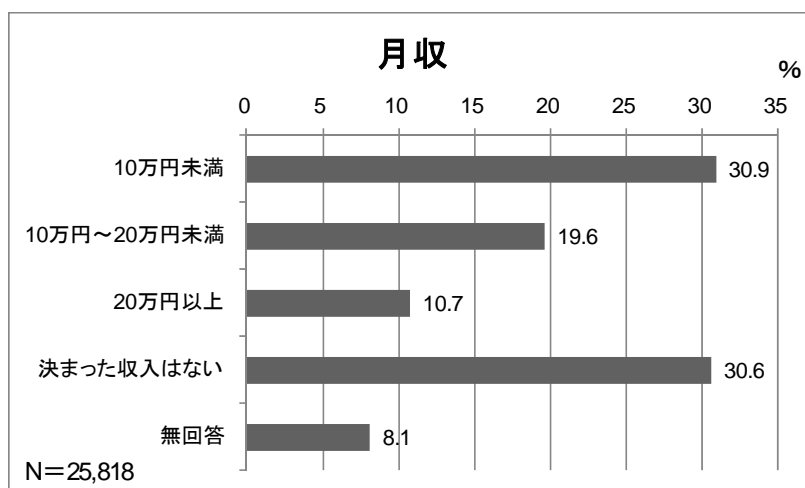
無職が 49.6%と全体の約半数を占めている。会社員・公務員 14.4%、パート・アルバイト 4.8%、自営 1.6%であり、就労している人は 20.8%であり、全体の 2 割である。通所施設等を利用している人は 14.4%であった。

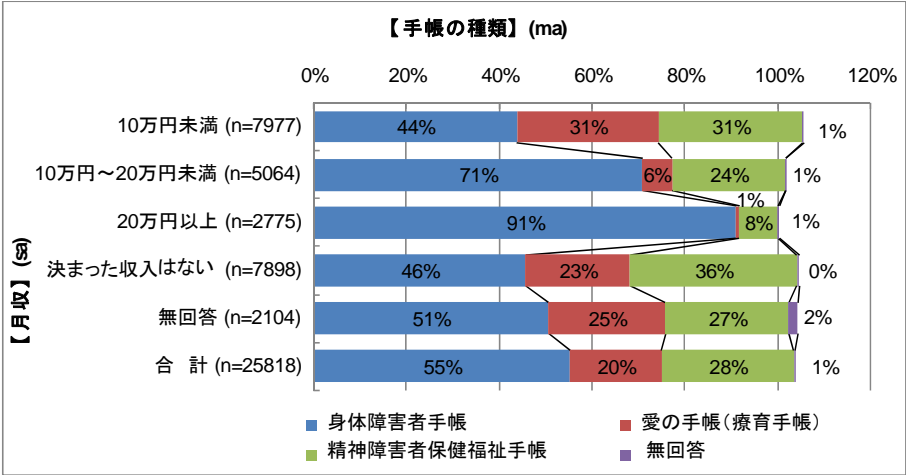


(6) 一ヶ月あたりの収入

10 万円未満が 30.9%、決まった収入はない 30.6%で、両者で全体の 6 割を占めている。20 万円以上収入があると回答した人が 10.7%みられた

一ヶ月あたりの収入ランク別に障害の種類をみると、10 万円未満、決まった収入はない、では 3 障害に概ね分散して見られるが、10 万円～20 万円未満、20 万円以上では、身体障害の割合がそれぞれ 7 割、9 割と高くなっている。



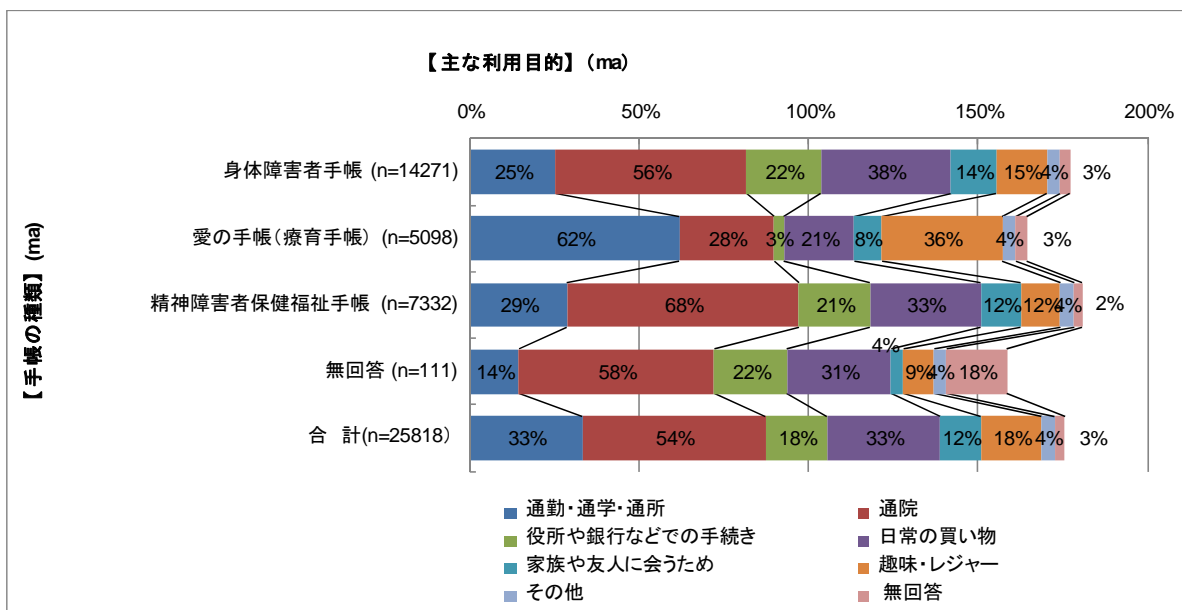
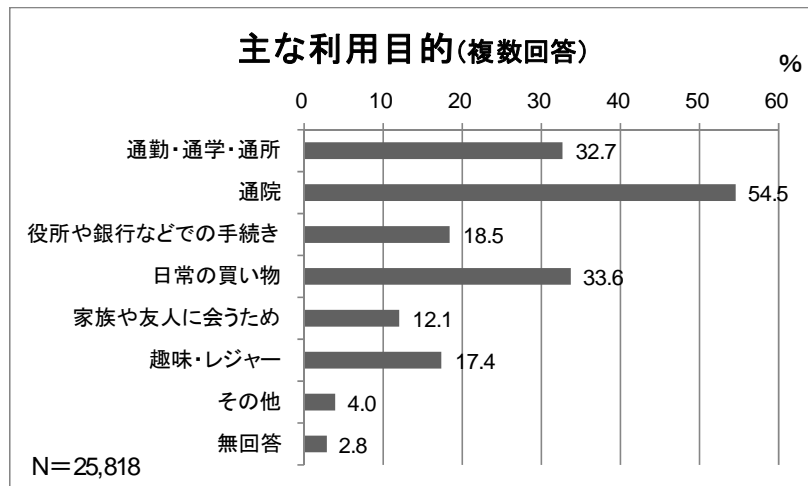


2) 福祉パスの利用の状況

(1) 利用目的 (複数回答)

福祉パスの主な利用目的は、通院が 54.5%と全体の半数以上を占めている。次いで、日常の買い物 33.6%、通勤・通学・通所 32.7%が多い。

障害の種類別に利用内容をみると、身体障害、精神障害では通院の利用がそれぞれ 56%、68%と最も多く、次いで日常の買物が、それぞれ、38%、33%と多くなっている。知的障害では通勤・通学・通所が 62%と最も多く、次いで趣味・レジャーが 36%と多い。



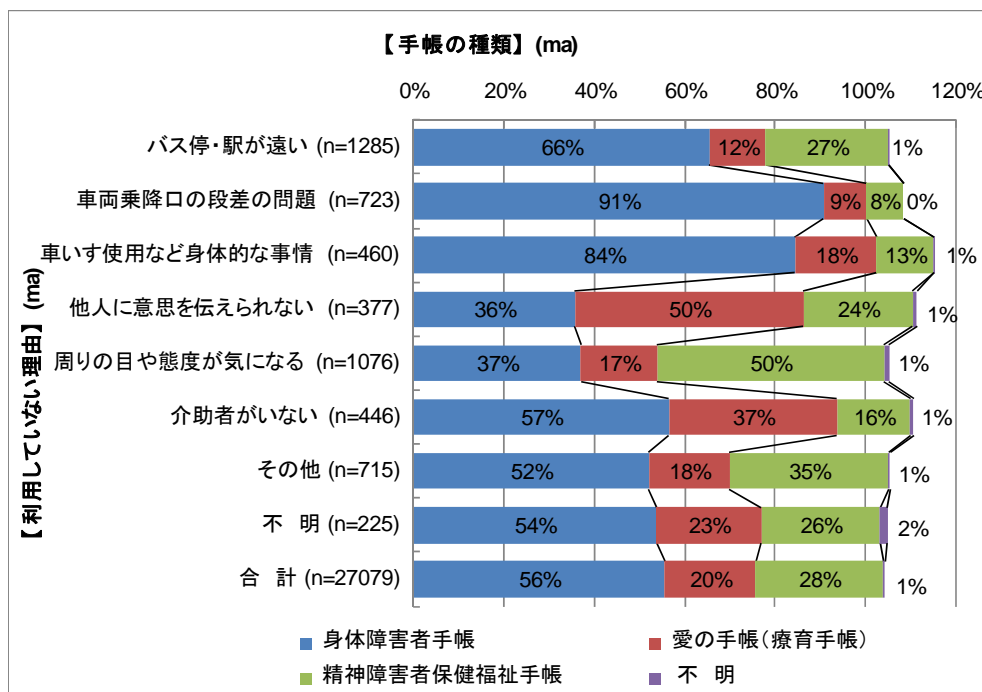
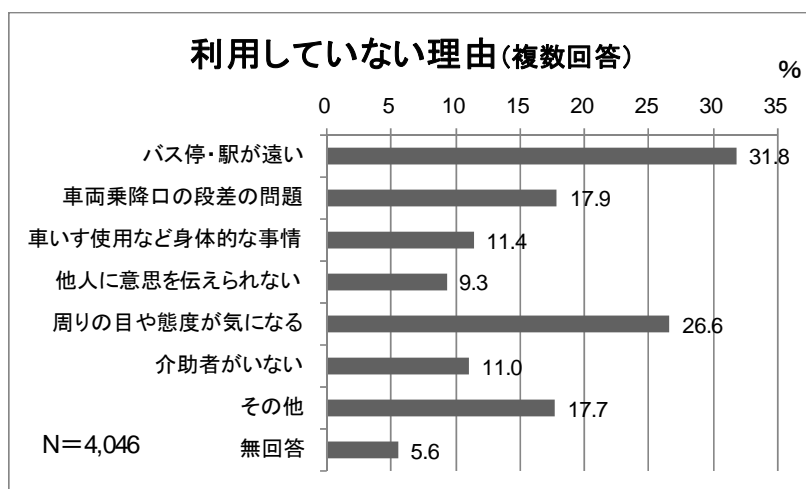
(2) 交通機関別利用日数

		利用して いない	1～5日	6～10日	11～15日	16～20日	21～25日	26～30日	無回答	全体	
件数	横浜市営バス	3,515	7,588	3,062	1,920	1,611	1,578	1,021	5,523	25,818	
	民営バス	3,145	6,444	2,754	1,783	1,582	1,559	918	7,633	25,818	
	横浜市営地下鉄	3,152	8,921	2,559	1,245	1,036	1,034	707	7,164	25,818	
	金沢シーサイドライン	9,105	2,326	289	124	94	97	84	13,699	25,818	
割合	横浜市営バス	N=25,818	13.6	29.4	11.9	7.4	6.2	6.1	4.0	21.4	100.0
	民営バス	N=25,818	12.2	25.0	10.7	6.9	6.1	6.0	3.6	29.6	100.0
	横浜市営地下鉄	N=25,818	12.2	34.6	9.9	4.8	4.0	4.0	2.7	27.7	100.0
	金沢シーサイドライン	N=25,818	35.3	9.0	1.1	0.5	0.4	0.4	0.3	53.1	100.0
割合 (除無回答)	横浜市営バス	N=20,295	17.3	37.4	15.1	9.5	7.9	7.8	5.0	—	100.0
	民営バス	N=18,185	17.3	35.4	15.1	9.8	8.7	8.6	5.0	—	100.0
	横浜市営地下鉄	N=18,654	16.9	47.8	13.7	6.7	5.6	5.5	3.8	—	100.0
	金沢シーサイドライン	N=12,119	75.1	19.2	2.4	1.0	0.8	0.8	0.7	—	100.0

(3) 福祉パスを利用していない、利用しにくい理由（複数回答）

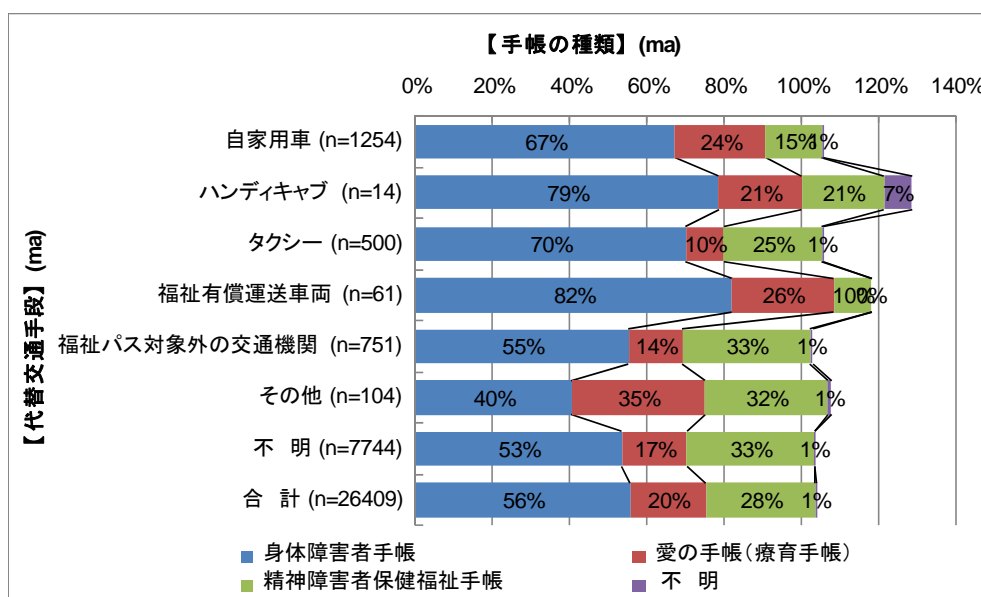
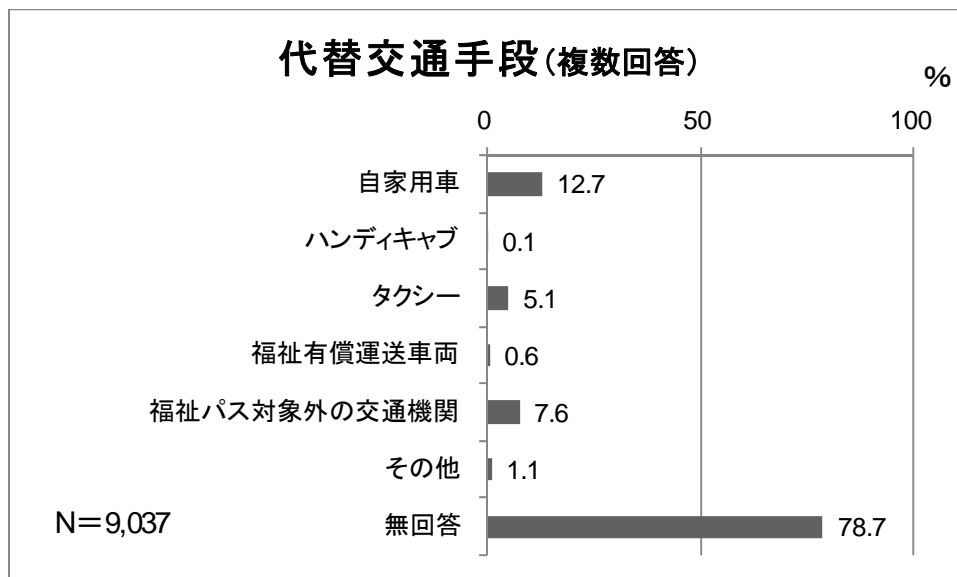
福祉パスを利用していない理由、利用しにくい理由は、「バス停・駅が遠い」が31.8%と最も多く、次いで「周りの人の目や態度が気になる」が26.6%と多かった。「車両乗降口の段差の問題」は17.9%、「車いすを使用しているなど身体的な問題」11.4%、「介助者がいない」11.0%、「他人に意志を伝えられないなどの事情」9.3%となっている。

利用していない理由別に障害の種類をみると、「バス停・駅が遠い」「車両乗降口の段差の問題」車いすを使用しているなど身体的な問題」では身体障害者の割合が多いが、「他人に意志を伝えられないなどの事情」は知的障害者の割合が多く、「周りの人の目や態度が気になる」では精神障害者の割合が多くなっている。



(4) 福祉パスを利用していない人の代替交通手段（複数回答）

無回答が多かったが、回答があった中では、自家用車が12.7%、福祉パス利用対象以外の公共交通機関7.6%、タクシー5.1%となっている。ハンディキャブ、福祉有償運送車両はいずれもきわめて少なかった。



(5) 意見・感想（自由記述）

- 意見総数 5932 件（5410 人から）
- 自由記述による意見で最も多かったのは「有効に使えている」（内容は「感謝している」「行動範囲が広がった」等）
- 約半数の人は福祉パスを高く評価している。（福祉パスを評価する意見は 3,123 件で、全意見数の 52.6%）

大分類	集計
有効に使えている	2,494
利用範囲の拡大	990
利便性の向上	706
継続	625
その他	601
利用時に嫌な思い	275
その他福祉パスについて	118
周知徹底	110
アンケートについて	13
総計	5,932

(資料) 調査票

横浜市福祉特別乗車券（福祉パス）利用者アンケート

横浜市では、障害者プラン（第2期）に基づき、現在、「将来にわたるあんしん施策」を進めているところです。その中で、福祉パスや福祉タクシー利用券など、現行の様々な移動支援施策をより使いやすく、必要な人に必要な支援が適切に行われるよう、再構築するための検討を行っています。

その参考として、今回、福祉パス利用者のみなさまがどのような利用をされているかなど、福祉パスの現状について把握するため、アンケートを実施いたします。

お手数ですが、アンケートにご回答のうえ、同封の返信用封筒により、**4月30日（金）**までにご返送ください（切手を貼る必要はありません）。

下記のそれぞれの設問について、当てはまるものに○をつけてください。

☆交付を受けている方自身のことについてお聞きします。

1 現在の年齢

- | | | | |
|----------|--------|-------------|-------------|
| 1. 10歳未満 | 2. 10代 | 3. 20代 | 4. 30代 |
| 5. 40代 | 6. 50代 | 7. 60～65歳未満 | 8. 65～70歳未満 |

2-1 次のどの手帳をお持ちですか（当てはまるものすべて）。

- | | | |
|------------|---------------|----------------|
| 1. 身体障害者手帳 | 2. 愛の手帳（療育手帳） | 3. 精神障害者保健福祉手帳 |
|------------|---------------|----------------|

2-2 上記「2-1」で「身体障害者手帳」を選択された方へ、どのような障害がありますか（当てはまるものすべて）。

- | | | | | |
|---------|--------------|-------------------|-----------|---------|
| 1. 視覚障害 | 2. 聴覚・平衡機能障害 | 3. 音声・言語・そしゃく機能障害 | | |
| 4. 上肢障害 | 5. 下肢障害 | 6. 体幹障害 | 7. 運動機能障害 | 8. 内部障害 |

3 障害者手帳を取得した時点の年齢

- | | | | |
|----------|--------|-------------|-------------|
| 1. 10歳未満 | 2. 10代 | 3. 20代 | 4. 30代 |
| 5. 40代 | 6. 50代 | 7. 60～65歳未満 | 8. 65～70歳未満 |

4 職業

- | | | | | |
|------------|----------|-------|-------|-----------|
| 1. 会社員・公務員 | 2. 通所施設等 | 3. 無職 | 4. 学生 | 5. その他（ ） |
|------------|----------|-------|-------|-----------|

5 月あたりの収入

- | | | | |
|-----------|----------------|-----------|--------------|
| 1. 10万円未満 | 2. 10万円～20万円未満 | 3. 20万円以上 | 4. 決まった収入はない |
|-----------|----------------|-----------|--------------|

☆福祉パスの利用内容についてお聞きします。

6 主な利用目的（利用回数の多いもの2つまで）

- | | | | |
|---------------|------------|-----------------|-----------|
| 1. 通勤・通学・通所 | 2. 通院 | 3. 役所や銀行などでの手続き | 4. 日常の買い物 |
| 5. 家族や友人に会うため | 6. 趣味・レジャー | 7. その他（ ） | |

裏面もご記入ください

7 福祉バスを利用して、1か月当たり、おおよそ何日外出しますか。下記の4つの交通機関各々について、該当するところに○をつけてください。

	利用していない	1～5日	6～10日	11～15日	16～20日	21～25日	26～30日
① 横浜市営バス							
② 民営バス（※）							
③ 横浜市営地下鉄							
④ 金沢シーサイドライン							

（※）小田急、神奈中、江ノ電バス横浜、フジエクスプレス、横浜神奈交、臨港、京浜急行、相鉄ホールディングス、相鉄バス、大新東、東急、横浜京急、横浜交通開発

8-1 福祉バスを利用していない方、又は利用しにくいという方へ、その理由はなんですか（複数回答可）。

- | | |
|-----------------------|----------------------|
| 1. バス停・駅が遠い | 2. 車両乗降口の段差の問題 |
| 3. 車いすを使用しているなど身体的な事情 | 4. 他人に意思を伝えられないなどの事情 |
| 5. 周りの人の目や態度が気になる | 6. 介助者がいない |
| 7. その他（ | ） |

8-2 福祉バスを利用していない方へ、移動の際、主に何を利用していますか（利用回数の多いもの2つまで）。

- | | | | |
|----------------------------|------------|---------|-------------|
| 1. 自家用車 | 2. ハンディキャブ | 3. タクシー | 4. 福祉有償運送車両 |
| 5. 福祉バス利用対象外の公共交通機関（電車・バス） | 6. その他（ | ） | |

9 その他、ご意見、ご感想などがございましたら、ご記入ください。

☆福祉バスを現在利用していないという方へ

利用者に対して、毎年3月に自動更新として、翌年度の福祉バスを送付しています。交付を継続して受けているが、今後は「利用しない」という場合は、今回送付したH22年度福祉バスを同封の返信用封筒に入れてご返送くださいますよう、お願いいたします（必要となった際、再発行可能）。

お問い合わせ先：横浜市健康福祉局障害福祉課給付支援係

TEL：671-2415 FAX：671-3566